



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—172 2024.12.2

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E-mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

フクシマにて

副代表 中川路 守

11月上旬、福島県双葉郡を訪れました。東日本大震災・福島第一原発事故被災直近の地域です。特に、大量の放射性物質に町の中心部を襲われた双葉町は、未だにほとんどが原則立入禁止の「帰還困難区域」であり、それを広報する看板が数多く立ち、主たる道路から枝分かれする道は鉄柵で通行止め、放置され崩れた廃屋や草ぼうぼうの田畑だらけです。震災から13年超経っても、「非日常」が継続している姿は衝撃的でした。また、第一原発は2kmほど離れた国道からしか見ることはできません。フレコンバッグ（放射性廃棄物を詰めた黒い袋）が無数に積み上げられている中間貯蔵地は不気味です。

東京オリンピック招致の際、時の総理大臣は「状況はコントロールされている」と世界に公言し、「健康問題について、今までも、現在も、将来もまったく問題ない」と約束しました。しかし、東京どころかパリも終わりましたが、わずか3gのデブリをとり出しただけで、コントロールできているとは到底言えません。

一方で、郡内にはどれだけ裕福な町かと思わせるような駅舎や役場、学校等が再建され、スマホのマップにも出てこない新しい道路も通っていますが、双葉郡全体の人口は震災前の1/4以下、特に双葉町に帰還した住民は約140です。「夜は真っ暗で怖い」と地元の方が語るほど、人気も生活感もあ

りません。また、海岸に見える護岸は道路側からは高さを感じませんが、護岸に登ると、波打ち際から10数mの壁となり海と隔絶されていました。



さて、福島県浜通り地区（海沿いの地区）では、地域の産業を回復するために、国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」が推進されています。「ロボット・ドローン」「エネルギー」「薬品」「航空・宇宙」等の課題に公費が投入され、過疎化する地域にどんどん工場が建てられています。単なる産業振興・復興とするにはあまりにも「場違い」な印象があります。「復興の名の下」に、何か違うことがすすめられているのではないかととらえる現地の方もいます。

最後になりますが、津波に襲われた双葉町中野地区を嵩上げた広大な場所には「伝承館」が建てられ、地震・津波・原発事故にかかわる展示や証言者の語り等が行われています。学習にはなりますが、暗澹たる思いになりました。安心して生活できる環境確保のために、原発は相容れないものとして、新しいエネルギー基本計画に反映すべきだと思います。

【県護憲ホームページにて、本編とフクシマの現状の写真などを掲載しています。上記QRコードから入れます。併せてご覧ください。】

10.19 熊毛ブロック護憲平和フォーラム平和学習会

2024年10月19日に西之表市民会館で護憲平和フォーラム熊毛ブロックの平和学習会が開催された。総勢40人の参加者が集まり、平和について学習しました。

まず初めに、護憲平和フォーラム熊毛ブロック代表大石正博氏から熊毛ブロックの状況や取組状況等を含めた挨拶がありました。

次に鹿児島県護憲平和フォーラム事務局長磨島昭広氏から連帯の挨拶と鹿児島県下の状況について報告がありました。県内の状況は弾薬庫等の推進が進んでおり、後の平和をないがしろにしかねない状況になっており、引き続き、平和を守る取組を重視していかなければいけない状況でした。

そして、今回の平和学習会のメインである神谷美由希氏からの講演がありました。神谷氏は沖縄対話プロジェクトの発起人であり、環境問題や選挙に注力しており、台湾有事に対する危機感から平和活動を開始しています。政府は国民の意見を無視して軍事整備に関する工事を強行され大切な自然も破壊されてきており、「基地のない沖縄」を目指して選挙活動への協力を行ったことについての話がありました。選挙活動を行う前は、平和な沖縄を次世代に繋げていきたいという考えを感じていたそうですが、台湾有事に伴い、次世代に繋げる以前に自分たちの環境を守る必要があることが強く伝わりました。政府が行っている取組を多くの日本国民が状況を把握できていないということに危機感を感じており、多くの人に伝えていかなければいけないという意思が伝わりました。

また、神谷氏は海外での研修等をへて物事を多角的にとらえ、政治施策や相手の発言がどのような思惑から出てきているのかまで考える必要があることについて話がありました。特に諸外国との交流において、相手国を多面的に認識し、正しく理解することが重要なことについて、言及しました。「海外の人と話すことによって、漠然としたイメージではなく、同じ人間として認識が変わることがある。相手と交流することは怖いが踏み出す勇気が必要」という言葉がとても印象深かったです。

最後に、神谷氏から種子島の状況について、意見交換を行いました。来場者が感じる不安や種子島のおすすめなど多岐にわたって意見交換を行いました。

今回の平和学習会を経て、来場者の平和に関する意識がより深くなりました。今後も引き続き、我々の平和について考え続けていきます。



地球温暖化と鹿児島の気象 ～気象災害から身を守るために 亀田晃一講演

県地方自治研究所は 11 月 23 日、第 52 回定期総会に続き第 152 回定例研究会を開催しました。講演は MBC 南日本放送の亀田晃一気象予報士を招き、地球温暖化と鹿児島の気象をテーマに講演が行われました。

2024 年の気象の概況から、南方海上の海水温の高さがもたらした強い高気圧によって記録的猛暑を招いたことや、大規模停電をもたらした台風被害の解説をされ、特に鹿児島市広木町の土砂崩れ動画では会場が息をのみました。また、鹿児島市の熱帯夜について、1940 年代には 14 日しかなかったものが、今や 62 日となった地球灼熱化の現状が語られました。将来的には熱帯夜は 100 日をこえ、本土の最高気温は軒並み 40 度をはるかに超える反面、島しょ部の沖縄は 39 度にとどまり、沖縄が避暑地になる可能性が示されています。

終盤、気象衛星の進化による解像度の向上は、中央駅から高麗町の MBC の壁に貼り付けた一円玉の表裏が判別できるまでに向上していながら、天気予報の精度向上は 82%から 87%に上がったただですでに頭打ちで、予報の限界にきていること、それでもスマホのアプリなどを使って防災情報を得ることの重要性、豪雨災害の奄美で死亡者数 1 名であったことから、地域の防災力の向上が必要であることを説き、講演会は締めくくられました。

会場からの、防災情報のメディアによる伝え方の問題点と、そもそもそのメディアを見ない若者についての対応について質問があり、講師からは、気象予報士は気象庁からの情報を「翻訳」して分かりやすく視聴者に伝えることが使命であること、また若者に対してはメディアからもネットに対応した情報を発信することの必要性が語られました

また、原発の温排水の環境への影響についての質問には、具体的なデータがないのでわからないが、経済活動が温暖化に影響していることは考えられると説明。

「線状降水帯」という言葉がなかった頃にもそれはあったのか、また、防災において自治体が果たす役割についても質問があり、この言葉がなかった頃、例えば鹿児島の「8.6 水害」も線状降水帯であり、現在は水蒸気の計測によって予測が出来るようになったこと、自治体の役割については、MBC が 43 市町村と防災協定を結んでいて、その上で密接に連携する自治体が災害に強くなると指摘がありました。



第 61 回護憲大会(イン岡山)

憲法理念の実現をめざす第 61 回護憲大会が、岡山市の「岡山コンベンションセンター」を会場に、11 月 24 日(日)～26 日(火)にかけて開催され、労働組合や各都道府県平和運動センターなど 1400 名が参加し、鹿児島県護憲平和フォーラムから 8 名が参加しました。参加者の感想文などを含めて、フォーラム情報 173 号にて特集号として発刊する予定です。



大隅ブロック平和運動センターでは、10月29日(火)13時30分より9条の会と共に海上自衛隊鹿屋基地で計画される弾薬庫建設に、反対の立場で臨むように鹿屋市長への申し入れを行いました(15名参加)。公務を理由に中西市長とは面会出来ませんでしたが、秘書広報室の課長に申し入れ書を手渡しました。

申し入れの中で、参加者から弾薬庫建設により想定される不安や危険性に対する様々な意見が出されました。今後も弾薬庫建設や無人機配備、日米共同訓練に反対していく事を確認して申し入れ行動を終了しました。



大隅ブロック平和運動センターでは、11月13日(水)13時30分より9条の会、平和運動をすすめる市民の会と共に海自鹿屋基地での日米共同訓練の抗議する緊急抗議集会を開催しました。集会は、大隅ブロック平和運動センター事務局長の下柳田が進行。参加者40名の中から、日米共同訓練や弾薬庫建設に関する様々な不安や危険性を指摘する意見が出されました。また共同訓練反対・軍事基地化反対・戦争への策動を許さないなどのプラカード



を掲げてのスタンディングも同時に行いました。参加者の皆さんと今後も様々な動きに注視して行き、こうした運動の継続を確認し、平和運動センターの本地事務局次長のシュプレヒコールで、集会を締めくくりました。

12月のとりくみ

鹿児島ブロック不戦を誓う日の集会 12月8日(日) 10時～12時

サンエールかごしま(鹿児島市荒田1丁目4-1, ☎099-813-0850)

最新ドキュメンタリー映画 『琉球弧を戦場にするな!』 上映会と鹿児島の現状報告

南薩ブロック平和学習会

12月7日(土)14:30～15:30 会場:南薩地域地場産業振興センター

テーマ:南西諸島防衛強化や鹿児島県内の状況について

講師:磨島・県護憲平和フォーラム事務局長



国道 6 号線から見える **福島第一原発**。白い建物は原発内のもので、直線距離 2 km ちょっと巨大なクレーンがいくつも見えた。また、フレコンバッグが大量に見えた。また、手前の入り口は鉄柵で立ち入りできないようになっている。放射線量はそれほど高くはないということだったが、鉄柵の前にはマスクをした警備員が立っていた。



福島県では「浜街道」が整備されつつあり、左手に見えている区間も 2023 年 2 月に開通したばかり。手前の建物は再建された浄化センターで、**奥に福島第二原発**が見える。ここから原子炉建屋までは約 600m。



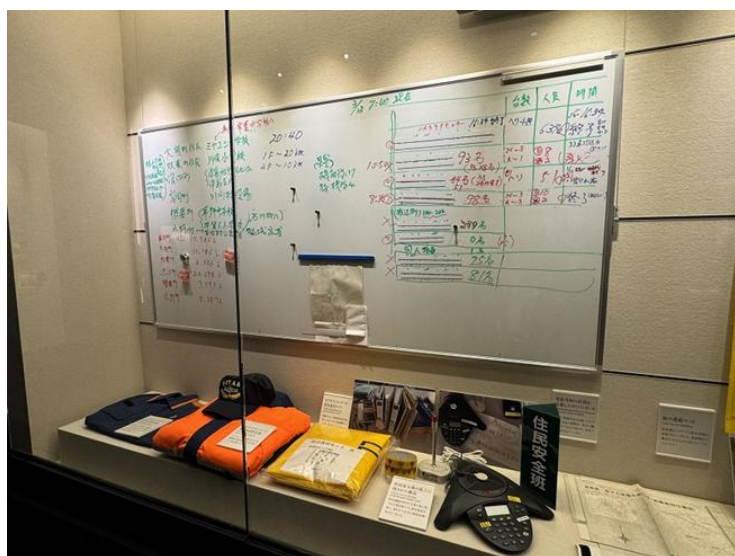
「東日本大震災・原子力災害伝承館」福島第一原発の建屋から約 8.5 km。2020 年 9 月に開館。もともとは田んぼの中に 20 数軒の集落があったが、津波に押し流された。除染等を行い、約 2 m 嵩上げしたことによって放射線は低くなっているということだったが、原発側に見える森には入れない（放射線量が大きい）ということだった。



伝承館の中から見える海側の景色。奥に白い事務所風の建物が見える（津波で被災したまま放置）。写真には写ってはいないが、もう少し左側にも津波被災した民家があり、津波で壊れた自動車がまだ置いてあり、自動車の持ち主は現在もその自動車の税を払っているということだった。乗っていた家族が亡くなったことから処分できずにいるとのことだった。



避難を呼びかけて回っている最中に津波に流された消防車。



原発の運転状況や避難状況をまとめたものがそのまま保存されている。



伝承館は写真展示が多いです。



測定された空間放射線量が電光掲示板で伝えられている（常磐自動車道路）。福島第一原発の近くの国道では0.629 マイクロシーベルトが表示されていた。



2023 年度、認定こども園と義務教育学校、預かり保育、学童保育を一体にした施設「**学び舎ゆめの森**」が大熊町に開校。0～15 歳児が学ぶ場とされているが、在籍者数は「入学者が心配になる」ほど少ない状況。



J R 双葉駅。駅舎はとても立派である。



開店直前に震災・原発事故が発生したために、そのまま放置されたケーズデンキ双葉富岡店。

